幼兒童話

燕さんのエプロンのお話

武田雪夫

これは、燕さんのエプロンのお話なのですよ。

この頃は、ほんとに大へんあたゝかになつて來ました。春になつたのですね。ですから、燕さんたちが、また歸つて來ました。昨年の秋から、あたゝかな南の國へ行つてゐた燕さんがみんな歸つて來たのですよ。

昨年住んでゐた巣を忘れないで、ちやんと自分の巣のところへ歸つて來ました。でも、ながいこと留守にして、あけておいたのですから、巣は、ずゐ分よごれてゐました。それに少し、こはれてゐました。

「さあさあ、それでは、なほしませう。」

「ええええ、早くなほしませう。」

父さん燕と母さん燕は、さう言つて、すぐに巣をなほしはじめました。

あちらこちらから、泥をはこんで來て、

「そらそら、こゝに、べつとべと。」

「ほらほら、こゝにも、べつとべと。」と、

巣のこはれたところへ塗つて、上手になほしましたよ。

それから、巣の中も、きれいにきれいにお掃除をしました。

まあまあ、立派に、巣のなほりましたこと。

その時、父さん燕が、よく見ますと、母さん燕のお胸のところの白いエプロンが、泥でベトベトによごれてゐます。

「おやおや、エプロンが泥んこですよ。」と、父さん燕が言ひました。

ところが、こんどは母さん燕がよく見ますと、父さん燕のお胸のまつ白なエプロンも、泥でベトベトによごれてゐます。

「まあまあ、あなたのエプロンも泥んこですわ。」と、母さん燕が言ひました。

そして、二羽の燕さんは、

「おははあ。」、「おほほほ。」と、大わらひをしました。

「それでは、これから、エプロンのお洗たくに行きませうよ。」

「えゝ、行きませう。」

さう言つて二匹の燕さんは、スイスイと飛んで行きました。

さあ、どこへ飛んで行つたんでせうね。

はい、小川まで飛んで行きましたよ。

そして、父さん燕と母さん燕は、小川のチョロチョロながれの淺いところへ入つて、ピチャピチャとエプロンを洗ひました。

燕さんのエプロンは、お羽根のエプロンでせう。ですから、そのまゝ、はづさないで洗ふのですよ。

父さん燕のうまく洗へないところは、母さん燕がお手づだひして洗つて上げました。それから、母さん燕のうまく洗へないところは、父さん燕がお手つだひして洗つて上げました。

その時、よく見ますと、父さん燕も母さん燕も、二匹とも、くちばしやお顔に泥がついて、きたなくなつてゐましたから、ついでにチャプチャプと上手に洗ひましたつて。

はい、これで、燕さんのエプロンのお話はおしまひです。